

# Shin Club 29

㈱辰 通信 Vol.29

2002年8月

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f

Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

## 今月のトーク 「ダンス」

原宿の駅から、千駄ヶ谷小学校方面に歩いて数分のところに、新しく全日制ダンススクール「I.D.Cインターナショナルダンス学院」がオープンします。このたび辰が改修工事を終え、代表取締役の濱田光宣氏にお話を聞かせていただくことができました。



今、なぜダンススクールなのでしょう。

「最近の若者のダンスブームは、すごいものがあります。アメリカ、ヨーロッパだけでなく、韓国でも根強い人気があります。時代を反映しているのでしょう。専門のスクールもかなりありますね。」

ブームは、HIPHOPと呼ばれるアメリカの黒人文化によるダンスミュージックの隆盛が中心です。2,3年前のTV番組の影響もありますが、今では単なる流行の域を越えています。駅や公園などで、ダンスの練習をしている若者をよく見かけます。一見すると同じように見える彼らのダンスは、実はいろいろな種類があり、さらにそれぞれが異なる方向へと進化しているのです。音楽業界全体がダンスミュージックの影響を受け、バックダンサーの需要が増すとともにプロとして本格的に活躍していこうという若者も増えています。踊りの集団の中で、一体感を共有し、一人一人が自分のスタイルを生み出し、テクニックを披露し、競い合う、それはきわめて健全な世界です。若者がまじめに取り組み、生き方そのものを考える場にもなっているのです。

「20世紀、これまでの我々の若い時代は、重厚長大な産業が日本を支えてきたけれども、それがIT産業、サービス産業にとってかわられました。今後も、よりクリエイティブな産業が時代を造っていくことになるでしょう。なかでも自己表現を仕事としていくエンターテインメント業界は、より国際的な広がりを見せていくはずですが、そんな中で基礎を重視した一貫教育により、真のプロを育成していきたいという理念で、I.D.C.を作りました。」

—ほかのダンスの学校と異なる点はありますか。

「これまで教育に携わってきた経験豊富なスタッフとの話し合いで出てきたのが、『日本の専門学校は何千人という卒業生を出しながら、ろくに就職させていないのではないか』という意見でし

た。ダンス、ボーカルのプロとして、世の中で一本立ちするまで面倒をみたい。アーティスト、ダンサー、ボーカリストとして作り上げていかなくてはならない。それには、必ず一流にする教育をしなくてはならない。そんな思いが強くなりました。そこで、I.D.C.という3つのポリシーをかかげました。」

—I.D.C.とは何の略ですか。

「I=Instruction, D=Dance, C=Creation, つまり『教える』『踊る』『創る』という3つの分野で食べていける人材を輩出しようということ。例えばダンスの技術はかなり高いにもかかわらず、背が低いなど、絶対に舞台上に立てないという人がいる。しかし振り付けを教えたり、構成・演出をしたりする仕事はできる。2年間のカリキュラムできちんと基礎を身につけ、自分にあった方向性を見出して、将来を見極め、総合的にパフォーマンス力を高める。そのために、インストラクター、講師には第一線で活躍するプロを迎えています。」

総合的なダンススクールは、今までなかったのですか。

「それぞれ、専門のスクールは、HIPHOPも含めてたくさんありますが、アメリカでも少ないですね。モダンダンス1つとっても、アルピン・エイリー、マースカニングハム、マーサ・グラハムなど、一流どころのメソッドの学校があるだけです。生徒はそれぞれの学校に学びに行かなくてはならない。もちろん、ほかにもバレエなど基礎的なダンスの学校へも行かなくてはならず、負担は大きいですよ。HIPHOPダンスもLA系、NY系とか、オールドスクール、ニュースクールなどと分かれています。日本では、音楽学校の一部、あるいはオープンスクールなどがあっても全日制で総合的な学習ができるダンス、ボーカルの学校はまずないですね。単なるストリートダンスの延長だけでは、NYの舞台にはとても立てません。ダンスの基礎はバレエです。そこから教えて、留学なども視野に入れて、本物のダンサーとしての実力をつけることができるようになっているのです。」

一流の講師陣に認められれば、卒業後の就職先もより現実的なものになります。若者の就職が厳しい状況の今、I.D.C.はオーディション、イベントに参画し、新たな雇用を創出する可能性もあり、来春のオープンが楽しみです。(現在、無料体験レッスンを受付けています。9月からはジュニアのプレ・オープンスクールも開校。問い合わせは下記まで)

渋谷区千駄ヶ谷3-55-18

Phone:03-5772-8812 FAX:03-5772-8813

http://www.idc-dance.com idc-dance@nifty.com



テーマカラーは能動的な赤。

2階受付 1階スタジオ1入口 2階ロビー 1階スタジオ1(無料体験レッスン中) 3階ミーティングルーム 3階ボカールーム 4階スタジオ2

## TOPICS

「イサミヤ第8ビル 地鎮祭」 (7月15日) 千代田区

構造:鉄骨造、  
地上5階、塔屋1層  
用途:店舗および事務所  
設計:有馬立郎  
(計画意匠研究所)  
完成予定:2003年1月



「二軒家アパートメント 地鎮祭」 (7月27日) 渋谷区

構造:RC造ラーメン壁式  
地上5階  
用途:共同住宅  
設計:木下道郎  
(ワークショップ)  
完成予定:2003年3月



「岡本の家 お引渡し」 (8月3日) 世田谷区

構造:RC造および鉄骨造、地上3階  
用途:専用住宅  
設計:中村晃

お施主様自身の設計による、吹き抜けの明るい住宅。傾斜地をうまく利用した建物からの景色は絶景。



## WHAT'S NEW

~ from this month's magazine ~

『pen with New Attitude』 No.82 2002.5.1号 (TBSブリタニカ)

「ホーム・オフィス」の特集。弊社施工の「inner skin house(北邸)」が掲載されています。「自宅で仕事をするための余裕と創造性、新しいワーク・スタイルを考える」というテーマで、NY、ロンドン、ミラノ、東京、大阪の実例を紹介、ほかにSOHO向け集合住宅の検証など、読みごたえのある記事満載です。少し前の情報ですが、全国にバックナンバー常備店がしっかりある雑誌です。ご覧ください。(右の表紙写真:北邸1階オフィス)



## INFORMATION

「戦後のモダニズムハウスと二世中村蘭台篆刻展」

1954年に竣工した諸井邸は、バウハウスに留学、日本でバウハウス教育に努めた山脇巖設計によるものです。建物は斬新なデザインでありながら、伝統的な木造家屋で、柱、天井、建具などにすばらしい職人の仕事を見ることができます。残念ながら、今秋10月に解体されることになりました。施主であった先代の諸井宜人氏は、篆刻家二世中村蘭台と親交が深くコレクターでもあり、諸井邸内部にはそのレリーフがインテリアとしてデザインされてもいます。

和風モダニズムの中に生き続ける篆刻、工芸品(約50点)のご紹介も同時開催です。

日時:2002年9月21日(土)、22日(日)、23日(月・祝) 13:00~17:00 豊島区駒込1-30-13 会費500円

